

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【室生ダム】

平成27年 3月

水資源機構 関西支社

【室生ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.3 洪水調節の状況 本編 P2-13	・統合操作と防災操作は何が違うのか。	・名張川上流3ダムが連携した操作を統合操作とし、出水時に実施している一般的な操作を防災操作としている。	—

3. 利水補給

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.3 水質状況の整理 本編 P5-95	・平成16年から平成22年にかけてマイクロキスティスが継続的に優占種となっている。マイクロキスティスへの対応策はどのようなものを実施しているのか。	・アオコの発生抑制対策として浅層曝気設備の運用により貯水池内を循環させている。	—
5.7 まとめ 本編 P5-189	・浅層曝気設備運用後も継続的にマイクロキスティスが優占種であるため、浅層曝気設備の効果はないということなのか。そうすると「表層水温の低下やアオコ発生の減少、貯水池底層の水質改善が確認されていることから、一定の効果があったものと考えられる」との評価と矛盾するのではないのか。	・浅層曝気設備稼働前は、貯水池全面にアオコ（マイクロキスティス）が広がっていた。浅層曝気設備の本格稼働後は、貯水池内でアオコの発生は確認されていないため、平成24年以降「一定の効果あり」と評価した。	—
5.7 まとめ 本編 P5-189	・水質保全ダムは「流入負荷量及び流入土砂が削減されていることから、一定の効果があった」と評価しているが、どのような理由からこのように言えるのか。	・水質保全ダム（副ダム）内に沈降した窒素やリンを含む流入土砂を毎年除去しているため、「一定の効果があった」と評価している。	—
5.7 まとめ 本編 P5-189	・水質保全ダムの適切な管理をしないと再溶出したリンが副ダム下流に流出してしまう場合がある。副ダム内のリンの挙動についてのモニタリング調査を実施していないのなら、今後モニタリング調査を実施する必要があるのではないのか。	・これまでも水質保全ダムの土砂撤去は行っており、今後も継続的に行う。また、水質保全ダムのより適切な管理（土砂撤去等）、運用について検討を行うために、モニタリング調査等を実施していく。	土砂撤去を引き続き実施するとともに、モニタリング調査についても実施する。

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証 本編 P6-122	・平成16年度及び平成22年度はイタチハギ群落が増加しているが、イタチハギ群落の増加は、自然増によるものか。また、何か対策は実施しているのか。	・イタチハギ群落の増加は、自然によるものである。また、イタチハギ群落への対策は実施していない。	—

7. 水源地域動態

特になし